

< 海外実習の1日スケジュール >

08:00 ~ 外科系全体の症例報告会

09:00 ~ 手術見学

12:00 ~ 昼食

13:00 ~ 手術見学

15:00 ~ 外来見学

16:00 ~ 入院患者診察・回診

* 毎週水曜日は 8:00 から内科・外科合同勉強会

* 2月3日～2月6日

医療ボランティアチーム訪問、Soddo 地域にて移動診療

* 2月7日

講演会

* 2月8日～2月14日

Facing Africa チーム訪問、多数の Noma 症例の顔面再建術見学

< 実習の目的・内容・成果 >

今回私は2013年1月7日から3月1日まで、エチオピアのMyungsung Christian Medical Center (MCM 病院)で実習を行いました。MCM 病院は、私が通っている教会が設立した総合医療機関であります。

私は、3つの目的を持ち今回の実習に参加しました。

- 1 Mobile clinic と手術見学・病棟見学を通しての第3世界の医療実態把握
- 2 エチオピアに特に多い患者（感染症、外傷、熱傷、HIV）の治療見学
- 3 産婦人科の諸疾患、分娩、緊急疾患の診断・治療見学

2ヶ月間は診療科にとらわれず、様々なケースを経験することができました。毎日午前8時に始まる外科系合同カンファレンスの後、手術予定表を参考に興味のあるケースを自分が選び手術見学をすることができました。また、執刀医の先生から許可を得て、アシスタントとして直接手術に参加することもできました。日本での5年次実習ではあまり経験することができなかった珍しい症例も多数含め、一般外科、小児外科、産婦人科、整形外科、形成外科、泌尿器科などの様々な手術を経験することができました。

日本とは違いエチオピアでは交通信号などの公共インフラが不足しているため交通事故

が非常に多く、外傷症例を多数経験することもできました。患者さんが救急センターに運ばれてきてからの一次応急処置を始め、大血管損傷や臓器損傷の開腹手術、その後の整形外科での固定および手術まで、外傷患者の治療の流れを学ぶことが特に印象的でした。

また、重症の熱傷患者さんも非常に多く、熱傷治療の基本プロトコールや全身管理の実際、形成外科的修復術(skin graft)などを詳細に見学できました。

約一ヶ月間の一般病棟見学を通して少し治療の流れが見えてきたら、日本ではなかなか経験できないモバイルクリニック（移動診療）を経験することができました。

2月3日から2月6日までは韓国の医療ボランティアチームがMCM病院を訪問し、当病院のスタッフと一緒に、Soddo地域でモバイルクリニックを行いました。Soddoという地域は、MCM病院があるエチオピアの首都Addis Ababaから車で約8時間以上離れている地域であり、首都アディスとはまた違うアフリカの医療・保健の実態を体感することができました。

4日間の短い期間でしたが、治療を必要とする1万人以上の人々が私たちの臨時診療所に集まりました。患者さんのほとんどは一生に一回もお医者さんに会ったことのない、医療には全く恵まれていない人々でした。しかし、実際モバイルクリニックで診察・治療できた患者さんはたった700人だけであり、また問診や検査を通して診断をしたとしてもSoddo周辺の医療施設・インフラが無いため、私たちにできる治療・処方には制限が多く、単回性医療支援の限界を痛感しました。開発途上国においての全般的な保健システム・公共インフラの構築、公衆衛生の確立など、国家レベルでの保健制度改革及び確立の重要性を実感し、より大きくて広い範囲の支援が必要とされていることを直接感じる機会になりました。

病院に戻り2月8日からは、Facing AfricaというNGO団体が当病院を訪問し、約1週間、多数のNoma Virus症例の治療を集中的に行いました。

Nomaはアフリカで多い疾患であり、栄養失調状態の人にしか発病しないウイルス感染症で、病気の進行に伴い口腔や額を中心とする顔面組織の壊死を特徴とします。Facing AfricaチームはNoma治療の基本になる栄養補助も一緒に、崩壊された顔面組織の修復術、患者さんのFollow-upまで行っており、私もその治療に参加できました。

<実習を終えて>

私は今回のエチオピアでの実習を通して、臨床医療における様々な症例の診察・治療が経験できました。振り返ってみると、やはりエチオピアの医療実態は、私が経験して来た日本の医療に比べ全般的に非常に劣っていることを痛感しました。また、世界各国から来ているMCM病院のスタッフやボランティアチームの話、現地の人々と親密な関係を築きながらの彼らとの交流、モバイルクリニック、日本では接しにくい症例の経験、そして色

んな医療外活動などを通して、沢山のことを目で見、感じ、また自分で悩み考えてみる大切な2か月を過ごせたと思います。

最終学年に入る直前で、これからの進路、人生のビジョンなどについて色々悩んでいたこの時期に、今回の2か月間の海外実習を通してより広い視野を身につけ、進路においてより多い選択肢を考えることができました。

5年間の学部生活が終わるこの時期に、実習の機会を与えて頂いたことに心から感謝します。